



ロータリーは機会の扉を開く

週報 第3103回

会長 白谷 喜世彦 副会長 原 真理子
幹事 小門 茂樹 SAA 山本 博章

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日 12:30~13:30

事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



泉大津ロータリークラブ
Izumiotsu Rotary Club



今週の例会 (2021年2月26日)

■ プログラム

特別卓話 大阪府議会議員
大橋 一功 様

■ 次週のプログラム

3月5日：クラブフォーラム
原 正人 クラブ奉仕部門理事
卓話 吉本 佳子 会員

■ 今後の予定

・3月12日：卓話 新会員2名
・3月19日：卓話担当 平山 和之 会員

■ 祝 誕生日

なし

■ 今月のロータリーソング

四つのテスト

■ 先週の例会

会長の時間

コロナで予定がコロコロかわりみなさまにはご迷惑おかけして申し訳ありません。いま話題といえば、コロナのワクチン。雰囲気的にいえば、ワクチン接種が始まればいまの状況とは大きく変わるような感じですが、でも考えてみると、これまでインフルエンザもワクチン接種してきました。でもそれでインフルエンザがなくなっただけではないです。毎年多数の人がインフルエンザにかかっています。今回のコロナのワクチンはインフルエンザよりもはるかに有効性が高いといわれています。といって、コロナがなくなるということは無いと思われまふ。このコロナなのが問題化といえば重症化する人は救いけれど、だれが重症化するかわからない。また重症化したときに決定的な治療法がまだまだ確立されていないということでしょう。島根県知事が、オリビックの聖火ランナーがスタートしたときに、島根県内でははしってもらいたくないという発言をしました。島根県はそのとき一人も感染者がいません。それでもわかるように、一人の感染者がいることも許さないという雰囲気がまだまだあるように思われます。しかし、実際はそんなことは不可能なようだと思います。おそらく今後もコロナがな



白谷 喜世彦 会長

IZUMIOTSU ROTARY CLUB 第3103回

くなることはないとおもわれます。しかし、経済活動、社会活動はいまのような状況を続けることはむづかしい。それから考えると、コロナがある状態で、社会活動をおこなっていくことをめざしていかないといけないと思います。私たちロータリークラブはそんな考えでこれからも、不自由をおかけしますが、活動をつづけていきたいと思います。

幹事報告 小門 茂樹 幹事

- 和泉ロータリークラブより例会変更のお知らせ
2月24日(水)、3月3日(水)は休会
- 3月13日(土)予定でございました、地区大会記念ゴルフ大会が中止となっております併せて、3月28日(日)に行われます地区大会ですが、今回は会長、幹事、選挙人、地区役員のみでの開催となります
- メールボックスに、後期の会費請求書を入れてさせて頂いておりますのでよろしくお願い致します
- 本日例会終了後、臨時理事役員会を開催します

委員会報告

- 泉大津ロータリークラブ創立65周年記念誌「会員の横顔」への写真・原稿寄稿のお願いについてですが、会員の紹介ということで3月末日までに宜しくお願いいたします
- 65周年の記念セレモニーの件ですが、4月17日(土)の予定をキャンセルして、改めて6月26日(土)スイスホテルで仮予約しております。今日の理事役員会に諮りまして日程を確定したいと思ひます。確定しましたら改めてご通知申し上げます (八木 秀富 65周年記念実行委員長)

■ ビジター なし

■ 出席報告 会員数44名 出席免除0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
2/19	35名	9名	—	79.55%
1/29	34名	10名	3名	84.09%

■ メークアップ

榎本(2/4 ワールド大阪ロータリーEクラブ) 寺田、小野寺(1/27 献血事業)

■ ニコニコ箱

- ・原さん、今日は宜しくお願いします(白谷)
- ・原副会長、本日の卓話宜しくお願い致します(小門)
- ・原まり子副会長、本日の卓話よろしくお願い致します。又、延山会員、新入会員卓話よろしくお願い致します(山本(博))
- ・良き事がありました(渡辺)
- ・長く休みました、すみませんでした(藪野)
- ・前回例会欠席のおわび(小野寺)

ニコニコ箱合計	23,000円
累計	509,000円

■ 祝 誕生日

根尾 玲子 (25日)



先週のプログラム 「新型コロナウイルス クラスタ対応の報告」



卓話担当 原 真理子 会員

○介護老人保健施設アザリアでの新型コロナウイルスの発生人数などについての概要
お盆の熱い日、8/12に老健アザリアの認知症フロアへ3階入所者より1名そして2名と熱発者があり、アザリアより和泉保健所へ相談し、翌朝、8/13に保健所によるPCR検査を認知症フロア入所者4名へ実施、結果4名全員が新型コロナウイルス陽性判定の報告を受けました。

それ以前でも施設では感染予防の為、全職員出勤時、退勤時の1日2回の検温、体調管理や体調不良時の報告義務、マスク着用、施設建物内の消毒などを日々実施しており、また入所家族への面会制限や外部者の立ち入り制限し感染予防対策はしていたつもりでした。が、コロナ陽性者が老健アザリアの施設内で発生してしまいました。な陽性者の人数ですが、はじめに確認された陽性者4名より終息までの間、最終的には、利用者31名、職員5名

の合計36名が陽性確認されました。入所者の20名の方がコロナ指定医療機関へ入院されました。最初のコロナ陽性者確認より終息までにかかった期間は、8/13～ 9/30の約1ヶ月半もの時間がかかり、感染拡大防止の為、その間は施設の入所やデイケアの介護サービスを停止し利用者様や家族様へご迷惑やご負担をお掛けすることになりました。

○新型コロナウイルス クラスタ対応の詳細内容について

コロナ陽性者が初めて施設内の入所者で確認された4名ですが、この4名の方はウイルスの量が通常よりも非常に多い方であったと保健所より報告がありました。ウイルス量が多いので他の方につきやすい可能性がある方達です。この4名の方は陽性確認された翌日、コロナ指定医療機関の2つの病院へそれぞれ入院が決まりましたが、うち1名の方が徘徊などの理由により、認知症の対応が困難とのことで入院当日、コロナ指定医療機関よりアザリアへもどってこられました。施設でもどってこられることを聞いて職員もなぜ対応できないのかと不信感を抱き、コロナ専門指定医療機関への入院が難しい現状を知ることになります。そのような環境化で日々、陽性者数が増加し、また入所者は体調が悪くなり、急変される入所者も増えてくるという状況になっていきました。

最終的に施設内で3階に入所している41名のなかで合計30名の陽性者確認がされますが、コロナ指定医療機関への入院出来た方は20名です。またその20名のうちも入院出来た日数が、当日から翌日が半数、のこりの半数は2日以上、1週間、10日以上かかった方もあります。また、陽性ではあったが入院出来なかった残りの10名は、施設内でコロナ感染解除となるまで対応をしています。コロナ感染の解除とは陽性確認又は発症後10日間以上あり、3日間は症状が無い状態を言います。

入院した全て陽性者を施設職員で病院までの搬送もおこなっています。夏の暑い炎天下の中、防護服を着て、換気の為車の窓あけて、病院へ搬送し、施設にもどってきたからは車両の消毒も人手がないにも関わらず自分たちでおこなっていました。

コロナ陽性者の看護や介護の対応している職員も日々、心身疲労が蓄積されていきます。最初の陽性者確認より10～11日目が最も陽性者対応数のピークとなり、施設内には約20名の認知症の陽性者をゾーニング(3Fフロアの室内などに隔離)し対

応することになります。認知症の方ですので、ご自身で熱を測ったり、体調不良を訴えたりすることはできません。状況理解が難しく隔離部屋より外へ出たいと訴え、抵抗される方もいらっしゃいます。そのような複数の認知症コロナ陽性者の体調管理や身の回りのお世話を、介護職員や看護職員が実施し、また、先ほどお話ししました、病院への搬送などもしなければなりません。入所者の方は皆さん高齢の方ですので急に体調が悪くなることもあり、コロナ対応をしている職員の心身疲労が日に日に蓄積されていくことがわかりました。医師は1名、看護師は4名でコロナ陽性入所者対応を24時間実施してもらっていました。もちろん介護職員にも防護服を着てコロナ陽性者の部屋の対応してもらっています。またもうひとつのひとつ下の階のフロア(2Fの50名)へ感染拡大させない為の神経を擦り減らしながらの対応となります。

泉大津市や大阪府へも陽性者の入院要請を依頼しますが、コロナ指定医療機関の入院についてはコロナ陽性者であっても状態が悪化している方からの入院となり、全ての陽性者の入院はかかないませんでした。アザリアでのクラスタ発生は第2波で大阪府の重症病床率も現在の第3波よりもだいぶ低い状況でしたが入院ベッドの確保が困難であるとの返答の毎日でした。

行政に対しては入院対応要請と人的な応援要請も継続しましたが、レッドゾーン(コロナ陽性者の隔離区域)にて対応できる医療スタッフの派遣は体制が整っていないのが現実には人的な応援についてもかかないませんでした。

アザリアではコロナ陽性者の発覚により自ら施設名を公表しました。コロナ発生状況を地域の方に知って頂き感染拡大を極力防止することと、アザリアでコロナ対応している職員が外部の関連者へ状況説明やアナウンスしやすいようにコロナウイルスの陽性者数などの公表を行いました。想定はしていましたが、公表したことで、誹謗中傷もありました。直接施設に何か言ってくる方はいませんが、SNS上には簡単に無記名で書き込んできます。『泉大津市から出て言いきつてほしい・・・』など心無いネット上の書き込みや、施設への無言電話、アザリア職員の家族や利用者にも出勤制限やサービス制限があったことを聞いて言います。コロナの濃厚接触者でもない方も、アザリアを利用している、アザリアの職員である、アザリアの職員の家族である、ことでばい菌のような扱

IZUMIOTSU ROTARY CLUB 第3103回

いを受けたと聞いています。誹謗中傷はありましたが、それよりも多くの励ましのお言葉や、お手紙、メール、差し入れなどもたくさんいただき、アザリアでコロナ対応をして頂いた職員の方の支えになっていたことも事実です。



卓話担当 延山 泰典 会員

○新型コロナウイルス クラスタを経験して学んだこと・・・

やはり感染拡大防止、クラスタ発生防止は3密の回避、マスク着用、手指消毒の基本がもっとも重要です。アザリアでのコロナ発生前は職員のマスク着用は義務付けていましたが、認知症の入所者さんまでマスク着用をお願いしていませんでした。入所者同士も3人がけソファに座りテレビを鑑賞していても注意せず、利用者間の距離についても工夫が足らなかつた反省をします。認知症の方へのマスクもぜひお願いしソーシャルディスタンスを守ってもらうことは、非常に難しいですが、根気よく職員よりお声をかけさせてもらい対応しています。

私が日ごろ接するクライアントは、本当に困っている方です。

いろいろな悩みを聞いていくうちに、共感しようとすると相手に、相手の負の感情を受けてしまい、「引きずられてしまう」ことがあります。

そのときの自分なりの処理方法ですが、それは、心理学者の河合肇雄先生の「無意識の構造」(中公新書)という本を何度も読み返しています。河合先生はカール・グスタフ・ユングの分析心理学の日本の第一人者です。

ユングは多少オカルト的な部分もあり、非科学的だと批判されていますが、臨床の現場で実際に発生する事例を自分の解釈で処理しようとせず、事実をありのままに受け入れようとします。そういう学問的態度が私にはとてもしっくりきます。ユング心理学、分かりやすく説明すると、人間の意識には、「意識」の領域と「無意識」の領域があり、主に「無意識」について扱っています。

結局、私が言いたいことは、自分の気分と自分自身を同一視しないということです。例えばイライラしたり、塞ぎこんだりしたときは、周囲の環境に原因を求めず(因果関係の否定)、その気持ちは一時的なものだと割り切ります。ただ、静かに見守り、雨風のように通り過ぎていくのを待つことが大切だと思います。

そういう場合、私は、無意識の「自己」と意識的な「自我」との間で何か不具合が生じていると考え、人生の意味を探るきっかけにするようにしています。

最後に今回のことで、職員は感染予防対応の知識や手順をしっかりしていればそう簡単には感染はしなくても体感しています。正しい知識で正しく対応することが重要であり、必要以上にコロナを怖がる必要はないのではないかと思います。私たち個々に感染予防に対する対応を正しくしっかりと行うことが最も重要かと思ひます。